

「ぼうずくぼうずく膝ぼうずくうさちゃんぼうずくこんにちは♪」二歳八カ月の娘が大好きな手遊びです。一年前に偶然参加したおはなし会で教わったこの手遊びは、いつも必ずやるので、娘もすぐ覚え「また、ぼうずくぼうずくへ行く♪」と、以来毎回参加しています。

図書館は私も田無生まれで、小学生のころから利用していますが、おはなし会は知りませんでした。情報量の多い図書館へは、自分が求める情報を得に行くことがほとんどで、その時必要なもの以外は気づきません。でも、一度気づくと改めて「図書館ってどんな場所？」と新鮮な気持ちで行くようになりました。おはなし会も初めは中央だけの参加でしたが、今は柳沢と谷戸の三館へ行きます。何度も行くと、今までは興味はなかった分野の棚を見てまわると、新しい本との出会いが増えて、楽しくなりました。

私にとって図書館は未来への入口。山ほどある未来へのどの扉を開けても私の自由でワクワク。たくさん読み、学んで新しい未来を



探すのです。さてどの扉を開けよう？

隣でいつも小さな娘が真似をして開けたり閉めたり。まだ意味もわからずにただ開閉している娘にこれからもたくさん種類の扉があることを教えてあげたいのです。

最近娘は絵本コーナーで自分の好きな絵本を出してきて、自分で読むのかと思えば私の方に絵本を向けて彼女なりの読みかきせをしてくれます。いつも

見ている先生の真似は娘の自由な発想。本に囲まれながら、親子で自由な時間を過ごす贅沢。娘にはここでたくさん本の経験をさせて本や図書館が大好きな子になって欲しい。それには私が本や図書館が大好きな姿を見せていきたいです。

それと、もつと図書館で司書の方々のお話を伺いたい。何気なく交わした言葉から、一冊の本を紹介してもらえたり…。感動です。

娘と再び通い出した図書館と、これからも私たちの新しい出会いの場としてたくさんたくさん、おつきあいしていきたいです。さて今日はどの扉を開けよう？

ひばりが丘図書館

ひばりが丘図書館はひばりが丘駅南口から徒歩二分、西武池袋線の線路沿い、ショッピング・ビルの近くにあり、買い物途中にも気軽に立ち寄ることが出来ます。蔵書数、貸出数ともに中央図書館に次いで市内第二位で、利用の多い図書館です。

線路に面した北側の窓際にある児童コーナーでは、子どもたちが、広い窓から行き交う電車をうれしそうに眺めている光景をよく目にします。

児童コーナーはくらしの本のコーナーと隣接しています。子どもは絵本を、お母さんは料理の本をと、それぞれの本を選んで一緒に見ることが出来ます。

また、他館と違って、YA(ヤングアダルト、中学生・高校生対象)コーナーが広く、調べものや読書ができるテーブルが置いてあります。市内で高校生の利用が最も多くなっています。

特色の一つとして、「原爆小文庫」があり、原爆関係の資料を多く収集しています。絶版本・私家本・初版本など都内の他の公共図書館ではなかなか手にとつて見ることができない貴重な資料もあり、居住地に関係なく、だれでも借りることが出来ます。

図書館の敷地内の植物も、春には

ツツジの赤い花が咲き、秋にはキンモクセイの香りが漂い、イチヨウの葉が黄色く色づき、四季を通じて、目を楽しませてくれます。

新町分室

新町分室は、多摩湖自転車歩行者道の南、西東京市の南西端の閑静な住宅地に位置し、福祉会館と児童館との複合施設の中にあります。開室は水曜から土曜の週四日、午後一時から五時までの四時間です。

資料数も貸出数も小規模ですが、雑誌最新号もあり、予約サービスも上手に利用している常連の方も多く、地域の子どもの大人にもアットホームな憩いの場となっています。

編集後記

合併により、昨日まで「おとなりの市」のものだった本が自分たちの図書館の蔵書となりました。その後構築してきたネットワークは、こうして倍増した市民の宝物である図書館の資料や情報を活かす重要な手段として欠かせないものです。

そして、市民が資料や情報と上手に出会えるように多岐にわたつて工夫し、コーディネートすることが、各々のサービスポイントで研鑽を積んでいる図書館員の使命なのです。

